



国宝一万六千三百点を一挙公開

『宗像・沖ノ島大国宝展』開幕

九月十七日、当大社神宝館にて『宗像・沖ノ島大国宝展』と題し、沖ノ島出土の国宝一万六千三百点を一挙に展示した特別展が開幕した。当日十一時からの開会式には、ご来賓の福岡県小川洋知事や宗像市谷井博美市長、主催のRKB毎日放送(株)社長井上良次氏を始め、後援・協賛頂いた各団体より五十人程にお集まり頂くなか、お祓いを受けるとテープカットを行い盛大に開幕した。

本特別展は、創立六十五周年記念を迎えるRKB毎日放送の特別事業として企画され、昨年一月にユネスコ世界文化遺産の国内候補地として決定



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

今年も列島に多くの台風が上陸し甚大な被害を各地にもたらしている。この時期の台風の上陸自体は珍しくないが、規模や上陸コースに過去に前例の無い予測不能な台風として上陸してくるのが今年の特徴である。特に台風十号は観測史上初めて太平洋側から東北地方直接上陸、又北海道では一週間に3つも台風が上陸するなど、過去からは予測できない発生に、改めて自然の驚異を痛感した。この原因の一つに海水温の上昇が、台風の威力を増加していることは間違いない。現在地球の海面水温の上昇により、台風の風速は過去三十七年間で十五%アップしたとの研究結果もでている。今後もこの海水温が上昇すれば、それに伴い台風の勢力も増大し、各地に大きな被害をもたらすことが考えられる。すでに台湾では風速八〇メートルを超える「スーパー台風」が上陸し大きな被害をもたらしている。▼豊かな恵みを与えてくれる自然であるが、時にはこのような厳しい現実を突きつけられる、これも自然である。だからこそ我々の先人達は自然に対し畏敬・感謝の念をもち、敬虔な祈りを捧げてきた。人類が自然を統治することはできないが、改めて祈りを捧げ、自然のお陰で生かされている事を人類が認識すれば、自ずと進むべき道は見えてくるに違いない。

(中)



県知事らによるテープカット



した「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の価値と魅力をより多くの方々に伝えようと開催された。

【本展示会の見所】

約八万点の国宝の中から選りすぐった一万六千三百点を全館(一〜三階)で

一同に展示。

本邦初公開を含め、沖ノ島での国家祭祀を象徴する銅鏡四十五面や、奈良三彩十一點、金銅製雲珠二十五点などを一挙に展示するなど、これまでに無い数を展示している。ま

た、一点、一点に模られた文様を、その美しさや技術力の高さを感じて頂けるように、照明によるライティング、ゆったりと落ち着いた、ある展示空間づくりの手法を駆使し、まるで美術品を見ているような空間になっている。

千数百年の時を経て発掘された国宝に秘められた先人たちの技術の粋と造形美をご覧頂きながら、古の時代から続く文化を感じて頂ければと存じます。

RKB毎日放送創立65周年記念

宗像・沖ノ島 大国宝展

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 世界遺産登録推薦決定記念事業

2016年 9月17日[土]-11月28日[月]

開館時間 9:00~17:00
(入場は16:30まで)

宗像大社 神宝館

入場料

- 一般 1,200円 (1,000円)
- 高・大生 800円 (600円)
- 小・中生 600円 (400円)

20人以上の団体、満65歳以上(シルバー手帳等の年齢を証明できるものを提示)は割引料金。



▲三角縁神鏡(国宝)

▲金製指輪(国宝)

▲金銅製龍頭(国宝)

「神宿る島」沖ノ島から出土した初公開を含む国宝の数々、一挙公開

沖津宮神迎え神事

九月七日秋季大祭に先立ち、沖津宮の御神璽を中津宮にお迎えする沖津宮神迎え神事が斎行された。

神事前日、葦津宮司以

下神職四名が大島へ渡り、午後五時から中津宮にて渡航安全祈願祭を斎行し、参籠。翌日、午前七時「国家鎮護」と書かれた大幟、両側に紅白の「御長手」と呼ばれる吹

き流し、船首に波切御幣をたてた御座船の福寿

丸に神職と沖・中両宮奉賛会会長沖西敏明氏をはじめとする役員、また沖・中両宮翼賛会会員の総勢二十三名が乗船し大島を出港。好天のなか海上を進み、同八時過ぎに沖ノ島へ到着した。

到着後、直ちに海中にて禊を行い、沖津宮本殿にて出御祭を斎行。御神璽を奉持し先導が祓いをしながら参

道を下り御座船に奉安し、沖ノ島を後にした。

午後一時、島民が迎えるなか大島に到着。駐在の先導により中津宮まで陸上神幸。同一時半入御祭が斎行され、滞りなく御神璽が中津宮へ納められ、十月一日を待つばかりとなった。



沖津宮より出御



本年奉仕船：福寿丸

時満ちて道ひらく
第二駐車場トイレ竣工
近年の参拝者増加に伴い、受け入れに万全を期すため、第2駐車場にトイレを新築した。



七月下旬に着工、九月十六日に無事竣工した。従前のものに比べ、便器数も増加、現在求められる多目的トイレも男女共に設けている。

造営日記

27

秋季大祭に向け、各奉仕団体との協議行われる

秋季大祭警備打合会開催

九月一日清明殿にて、秋季大祭期間における警備体制の打ち合わせ会が開催された。

この打ち合わせ会は、多数の参拝者が訪れるであろう十月一日より三日までの秋季大祭に向け、受け入れ体制の確認、交

通規制など関係各所との申し合わせ事項等を話し合った。

今年、世界遺産の内候補決定また大国宝展も開催中であり、参拝者が増加することが見込まれる。昨年の反省事項を確認しながら会議は進められた。とくにみ



あれ祭には多くの見学者が神湊に來られるので周辺の交通整理や、危険箇所への立ち入り禁止の徹底など神社とご協力いただく官公庁、団体と蜜に連携をとり対応することが確認され会議は終了した。

宗像大社海洋神事奉賛会打合会

九月三日、齋館にて中村忠彦会長以下宗像七浦の漁協関係者十一名出席の下、開催された。

同会は宗像七浦の漁協関係者・水難救済会によって構成されており、みあれ祭の他、宮中への若布献上等、当大社の海に関わ



る神事を中心に奉仕頂いている。本年も沖津宮神迎神事の日程、「みあれ祭」の御座船、その他の奉仕船、船団編成などを中心に審議が行われその後、来年に控える「豊かな海づくり大会」について、プレ大会が十月二十九日に予定され本大会のタイムスケジュールについてはこれから詰められて行く段階であることが報告された。

福岡市	一〇〇,〇〇〇円	杷野光貴 昭子
北九州市	三〇〇,〇〇〇円	田中正人・久子
飯塚市	一〇〇,〇〇〇円	草場 天子
福岡市		青木 眞
熊本市		高井良貴美子
小野市		石原 順男
小田原市		明治 理子
豊能郡	五〇〇,〇〇〇円	井手口博登
福岡市		川上 憲一
福岡市		橋本 龍空
福岡市		天野かおる
福岡市		青木比登美
姫路市		平岡 哲人
行方市		橋本 茂
千葉市		今関 朗
吹田市		嶺 嘉真
小平市		三谷 果愛
葛飾区		倉富 眞
大野城市		佐藤ゆかり
伊勢市		富岡 宏幸
安芸郡	三〇〇,〇〇〇円	竹岡 誠二
さいたま市	三〇〇,〇〇〇円	菊池 紳一
豊能郡	二〇〇,〇〇〇円	井手口博登
山鹿市		松本 五月
町田市		石井 純代
枚方市		松清 英行
長浜市		平石 綾子
中津市		阿部 祐子
中津市		阿部 綾香
仙台市		水谷 晶子
大阪市		岡田 和昭
宗像大社氏子会	一〇〇,〇〇〇円	乙藤 義孝

御造営奉賛者御芳名
(平成二十八年八月(順不同・敬称略))

宗像市中学生職場体験事業 市内の中学生が巫女を体験

九月十二日～十六日の

五日間、中央中二名、河東中二名の四名が当社にて職場体験学習を行った。

職場体験学習は市内七

校の中学校二年生全員を市内の事業所に振り分け、社会体験を行うことで社会における自主性、協調性、責任感を学ぶ取



り組みである。

期間中、主に神社の顔

である授与所での社頭奉仕を体験。袴姿で巫女の指導を受けながら参拝者

に対して

御守り等

の授与を

行った。最

終日には、

体験期間

中の素朴

な疑問な

どについて意見が

交換された。

この体験学習に

おいて、これから

の社会人として役

に立つ事が一つで

も得られたなら今

回の研修の意義が

あったと思う。こ

れからの活躍を心

より期待したい。

主基地方風俗舞保存会 研修旅行

主基地方風俗舞保存会

研修旅行が花田会長以下

会員六名参加のもと、九

月十一日から一泊二日で

開催され、長崎県長崎市

へ向かった。

まずは長崎市に鎮座す

る山王神社へ参拝した。

山王神社は大東亜戦争の

原爆の影響が色濃く残る

神社であり、参道の鳥居

は原爆爆心地からは南東

約800mの所にあり、

高温の熱線で上部は黒く

焼け、爆風で左半分は倒

壊したが、右半分だけは

笠石を載せたまま奇跡的

に残っている。又境内の大

楠は爆風の影響により一

時は枯れ木同然になった

が、生残り樹勢を盛り返

した樹である、内部には

飛ばされた瓦礫がめり込

み空洞ができており、原

爆の凄まじさを今に伝え

ていた。また、諏訪神社

も参拝し、境内では例祭

の長崎くんちの際に氏子

地区より奉納される太鼓

山と龍踊の温習が行われ

ており、地区にて伝承さ

れる舞を見学できたのは、

保存会会員とし

ても良い研修の

機会であった。

また、長崎県で

世界遺産を目

指す「長崎と天

草地方の潜伏キ

リシタン関連遺

産」の一部である大浦天主堂と外海の出津集落・大野集落を見学し地元根付いたキリシタン信仰に触れることができた。

今回の研修では形は違

えども、伝承する舞と続

けられて来た信仰を目的

当たりし、自分たちも

伝統を継承する事を意識

できた有意義な研修となっ

た。

第46回

西日本菊花大会のご案内

毎年、11月1日から開催される菊花展。九州各県、山口の菊花愛好家から出品された様々な菊の花約3000鉢が境内に展示され、西日本一の規模を誇ります。

- ◆会期 平成28年 11月1日(火)～22日(火)
- ◆時間 終日
- ◆会場 宗像大社境内
- ◆拝観料 無料



「宗像国際環境100人会議2016」開催

八月十九日から二十一日にかけて、地球環境保全と次世代を担う人材の育成を目的とした「宗像国際環境100人会議2016」が宗像市で開催された。この会議は、国内外で活躍する研究者や

文化人、地元の学生らが集い、共に地球環境問題について議論を交わすもので、一昨年から開催されている。

三回目となる本年は、

初日は、「海」に加え、

当社をはじめ、宗像市、漁協、観光協会、環境団体など地元

「川」にも目を向け、それぞれの現場で実際に環境保全に取り組む企業、団体、専門家による事例発表を行った。

民間企業、教育機関等で実行委員

二日目は、宗像の海をフィールドに、海岸に漂着したゴミの回収や、荒れた竹林を伐採し、その竹を使って漁礁を作り、実際に海に沈める



水産高校による発表



フィールドワークの様子

最終日は公開型シンポジウムとして開催し、多くの市民が見守るなか、地元の取組みの紹介、専門家らによるパネルディスカッションの後、本会議の議論を取りまとめた「宗像の森里川海から世界へ2016宗像宣言」を採択、発表し、三日間の会議を終えた。

本会議は、宗像の豊かな自然、価値ある歴史・文化の次世代への継承を

契機として、我々人類が抱える地球環境問題を解決する糸口を見つめる契機とすべく、今後も継続開催する予定である。



ことで漁業資源の回復や藻場の再生を試みるなど実践型のプログラムを実施した。

最終日は公開型シンポジウムとして開催し、多くの市民が見守るなか、地元の取組みの紹介、専門家らによるパネルディスカッションの後、本会議の議論を取りまとめた「宗像の森里川海から世界へ2016宗像宣言」を採択、発表し、三日間の会議を終えた。

宗像の森川里海から世界へ 2016宗像宣言

宗像の島や渚を洗う対馬暖流。はるか赤道近くからこの地宗像に流れてくる水は、沿岸の自然条件や人々の暮らしの影響を受けながら、はるばるこの地にやってきます。

宗像では、ぐるりとあたりを見回すと、緑の山々の頂きが見えます。この分水嶺からの水は泉として湧き出て、釣川の流れへと集まり、人々の生活を支えてきました。そして、その水は玄界灘に注がれて、対馬暖流と出会い、海の恵みも育んできました。

この宗像は、実に住みやすく、自然の恵みを楽しむやすい地なのです。

古来より守られてきた聖地、沖ノ島は玄界灘沿岸の生物多様性が凝縮され、今に保たれています。対馬海流は、いくつもの海峡を経て太平洋に出て、世界につながっています。しかし宗像に恵みをもたらしてくれた壮大な水の循環が、陸から出たゴミを運んで拡散させることになるなど、想像できたでしょうか。

私たちは、島や渚のフィールドワークを通じて、私たちを育ててきた海が、実に身近なところからでも、危機に陥っていることがわかりました。海からの警鐘に耳を傾け、未来を考えていくため、次のことを宣言します。

1、温暖化と磯焼けについて

宗像における温暖化は著しく、今年の夏の海水温度は30度にまで上昇、海水は温泉のようになり、海草藻や魚介類も減少する磯焼けが起き、魚種も変わりつつあります。そのため藻場の再生は早急の課題であり、解決すべき問題です。

宗像では民間レベルで藻場再生のための漁礁づくりを『海の鎮守の森構想』と名付け、取り組んでいます。これからはこのような活動が国内外においても広がっていくことを強く望んでいます。

2、海のごみ問題について

海外と海とつながっている宗像は、近年では隣国からも大量の漂着ゴミが押し寄せ、大勢のボランティアによる海辺のごみ清掃が執り行われています。さらに今日ではプラスチックゴミがマイクロプラスチックとなり、魚がそれを食べはじめ、人体への影響も心配されています。ゴミ問題はそもそも捨てなければ解決されることです。そのため海辺の活動を通じて、ゴミの不当投棄問題を国際世論に訴えていきます。

地球の七割を占める海の急激な環境の変化は、近年の異常気象に大きく影響していると考えられます。そのため海の生態系を取り戻すことは極めて重要であり、早急に取り組むべき問題です。海には国境がないため国際的な連携が求められます。しかし私たちは、まずは足元の宗像の海を再生することによって、これを国際活動の一助に繋げていきます。

平成28年8月21日

宗像国際環境会議 参加者一同

第六六一回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子
針山はピタリコンネと底箱に二人静の蓋をし収む
ピタリコンが面白いが、二人静がより魅力的なの
で、針山を底箱に収め蓋をする二人静の花の絵の蓋
としてみた。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
魁夷からサインを受けし本を持ち絵と再会に博物館へ
東山魁夷の展覧会を九博に見に行く作者の浮き浮き
した気分が伝わってくる。三句以下へ画集持ちその絵
に会いに九博へ行くに。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
朝ごとにわれを映して在りし鏡戦後七十年を生きし証ぞ
七十年使う鏡を見るたびに過去を思う作者。充実した
生を送って来た作者ならでは。少し抑えて三句へ鏡
在りへ結句へ生きたる証に。

福津市 若木台 山崎 公俊
しらぬひの筑紫のしまのせせらぎを天の川とぞ島びとは称ぶ
中津宮の天の川。島人の気持ちに寄り添うような歌。
二句をへ筑紫大島のと島の名を入れては。

宗像市 多禮 早川 祥三
手づくねの夫婦茶碗のケンカ跡金継ぎのサビ手づくりのわび
割った後を金継した自作の茶碗。四句と結句の韻を揃
えてあるが、三、四句に助詞がなく切れた感じなので
四句をへ金継ぎせるはと。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉
庭に咲く鹿の子百合活け褐色の花粉まみれの雄蕊切り取る
時間の経過の順に詠まれていくが、三句から詠み始
めへ褐色の花粉まみれの雄蕊切る庭に咲きたる鹿の子
百合活けへとしてもいい。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
夜の蟬網戸にとまり動かざりしろき腹部をおぼろにみせて
網戸に留まる蟬の描写が丁寧で良い。蟬の残り少ない
命を惜しむ作者だろう。

宮若市 水原 吉崎美沙子
山道の丸太木橋の苔危うしまず杖を出し汝の顔を見る
苔で滑りそうな橋で慎重に確かめている作者。連れ
と顔を見合わせているのか。連れが夫君ならへ君に。

宮若市 宮田 本田エリナ
伸びきった枝先に咲くサルスベリ隣家の墓に花びら散らす
美しい景、百日紅の散り方は雪に似て風情がある。そ
の木は自家の墓地から枝を伸ばしているのだろうか。

福津市 中央 池浦千鶴子
四年ごの東京五輪も見たくなり夕餉の肉を多目に食す
健康に気をつける作者らしい楽しい歌。年をとった
ら肉を多めにというのが、最近の長生きの秘訣らしい。

◆選者詠
日帰りのひとり旅する自在感秋日さす町汗かき歩く
ぬばたまの黒豚もみぢばの赤牛のいづれ選らばむ駅弁にまよふ

第六三五回

俳句作品集

宗像市 多禮 早川 祥三
草矢疾く指傷跡の野路果つる

10月 祭事暦

1~3日 秋季大祭

15日 月次祭
午前10時~ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
午前11時~ 総社祭、豊栄舞奉奏

17日 表千家献茶祭 午前11時~

【大島・中津宮】15日 沖・中両宮秋季大祭
午前9時~ 沖津宮大祭
午前11時~ 中津宮大祭

編集後記

先月、神戸市において神
社関係者の野球大会があり、当社も
太宰府天満宮との合同のチームで出
場してきました▼昨年と同じく二回
戦からの出場となり、その試合は引き
分け。なんとジャンケンで決着をつけ
る事となりました▼一番最初に順番
が……ここまで緊張するジャンケン
は人生で初めてでした。成績は当チー
ムまさかの五連勝でした。私も連良
く勝ってホッとしたのですが、ジャン
ケンでここまで本気になれるとは思
いませんでした▼ちなみに結果は準優
勝で終わりました。来年は福岡で大
会が開催されます。参加される皆様
の受け入れにも力を注ぎ運ではなく
実力で優勝したいと思います。(黒)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所 所 千八一一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一三二(代)
発行人 葦津 幹之
編集人 大塚・鈴木・黒神
制作・印刷 ゼネラルアサヒ